

## 《履修モデル》

講座	5.言語科学講座	
学系	認知情報学系	
関係・分野	言語科学（言語情報科学分野）	言語科学（言語比較論分野）
教員	教授：谷口 一美（認知言語学・構文文法論） 教授：守田 貴弘（類型論・意味論・フランス語学） 准教授：Ginsburg, Jason（言語学理論・統語論・計算言語学）	教授：河崎 靖（比較言語学・ゲルマン語学） 准教授：西脇 麻衣子（ドイツ語学） 准教授：堀口 大樹（スラブ語学）
1回生	<p>&lt;全学共通科目&gt; 言語科学Ⅰ・Ⅱ</p> <p>&lt;学部科目&gt; 言語科学入門 言語科学ゼミナールⅠ・Ⅱ</p>	<p>&lt;全学共通科目&gt; 言語科学Ⅰ・Ⅱ</p> <p>&lt;学部科目&gt; 言語科学入門 言語科学ゼミナールⅠ・Ⅱ</p>
<p>初歩的入門レベルの授業としてまず上記の科目を履修し、言語科学の考え方に親しむ。言語科学の関連領域は膨大であり、哲学・論理学・心理学・社会学・人類学・脳科学・認知科学・生物学・計算機科学等から、各自の関心に依じて選択し同時に履修することが望ましい。外国語科目は積極的に履修すること。</p>		
2回生	<p>&lt;全学共通科目&gt; 言語科学Ⅰ・Ⅱ</p> <p>&lt;学部科目&gt; 言語科学入門 言語構造機能論 言語認知論 言語比較論Ⅰ・Ⅱ 言語科学ゼミナールⅠ・Ⅱ</p>	<p>&lt;全学共通科目&gt; 言語科学Ⅰ・Ⅱ</p> <p>&lt;学部科目&gt; 言語科学入門 言語構造機能論 言語認知論 言語比較論Ⅰ・Ⅱ 言語科学ゼミナールⅠ・Ⅱ</p>
<p>多様な専門講義科目やゼミナールの履修を通じて、関心を持つことのできる分野やテーマを探そう心がける。</p>		
3回生	<p>&lt;学部科目&gt; 言語構造機能論 言語認知論 言語比較論Ⅰ・Ⅱ 言語構造機能論演習 言語認知論演習 言語比較論演習Ⅰ・Ⅱ</p> <p>言語科学ゼミナールⅠ・Ⅱ</p>	<p>&lt;学部科目&gt; 言語構造機能論 言語認知論 言語比較論Ⅰ・Ⅱ 言語構造機能論演習 言語認知論演習 言語比較論演習Ⅰ・Ⅱ</p> <p>言語科学ゼミナールⅠ・Ⅱ</p>
<p>研究テーマを絞り込み、指導教員と相談しながら、そのテーマを深く掘り下げることを心がける。卒業に必要な単位は3回生までに取得し、4回生では卒業論文作成に集中することが望ましい。</p>		
4回生	<p>&lt;学部科目&gt; 言語構造機能論演習 言語認知論演習 言語科学ゼミナールⅠ・Ⅱ</p>	<p>&lt;学部科目&gt; 言語比較論演習Ⅰ・Ⅱ 言語科学ゼミナールⅠ・Ⅱ</p>
<p>演習・ゼミナールを受講し、卒業論文作成に注力する。</p>		
<p>言語はこの地球上で私たち人間だけが持つ心的能力であり、思考やコミュニケーション、科学、文化などあらゆる知的活動の基盤となるものです。その言語を対象とする言語科学は一種のメタ科学であるとも言え、人間の心や人間性そのものを理解することがその大きな目標です。総合人間学と呼ぶにふさわしい研究領域だとも言えるでしょう。</p> <p>学生の皆さんには、普段何気なく使っている母語や学習している外国語についての素朴な疑問をきっかけにして、言語の特質や不思議さを理解し、また言語科学の幅広さや奥深さを楽しんでもらいたいと思います。</p> <p>言語科学関係の教員はそれぞれがユニークな研究テーマを持って精力的な研究活動を行っています。できるだけ多くの講義を聴き、自分の興味・関心に合ったテーマを見つけてください。</p>		

## 《履修モデル》

講座	5.言語科学講座
学系	認知情報学系
関係・分野	外国語教育論
教員	准教授：中森 誉之、ピーターソン, マーク
1回生	<p>・全学共通科目：「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」など。 ・専門科目：英語科教育職員免許状必修科目の英語学習指導論または英語統合技能論（隔年開講のため1回生から履修可能です）。</p> <p>教育学、心理学、言語学、社会学など、人文社会系の教養科目は、基礎的な見識を培うためには必要不可欠です。貪欲に学んでください。英語力の維持、向上にも真剣に取り組みましょう。</p>
2回生	<p>・技術支援型言語教育論、英語学習指導論（偶数年度）、英語統合技能論（奇数年度） ・教科に関する科目：「英語学」「英米文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」など ・教職に関する科目：「教職教育論」「教育方法論」「英語科教育法」「道徳教育論（中学）」など</p> <p>教職科目を履修する場合、他の仲間たちとは比べものにならないほどの授業数になります。教育を専門に考えるためには必要不可欠な過程です。この意味では、一つの分野や課題に絞ってそれだけを学んでいけば済む、ということはありません。したがって、特定の講義名を列記することは不可能です。教育系が広域科学たるゆえんです。</p>
3回生	<p>外国語学習・教育を考究する上で、教育職員免許状科目に準じて履修することを強く勧めます。教育の全体像を多角的かつ複眼的に理解した上で、自らの研究課題を見つけ出すことが大切であるからです。「教科に関する科目」「教職に関する科目」などを継続して履修し、介護体験（2回生から可能）や教育実習に向けた準備を進めましょう。</p> <p>英語の場合、「教科に関する科目」はすべて総合人間学部提供の授業において取得することが可能で、そのほとんどが2回生から履修できます。しかし、「教職に関する科目」は教育学部開講なので、総人の履修登録とは別に教育学部で教職科目専用の履修登録をする必要があります！注意しましょう。</p>
4回生	<p>卒業論文では、外国語の学習、教育などの分野で、興味関心事項を考察することになります。研究論文で必要な教育現場での実証研究などは、修士課程以降の必須条件ですので、卒論では求めません。基本的には、興味関心事項に対する観察・記述・分析・説明を、文献研究、資料解析などで深めることを期待します。何よりも一人一人の問題意識を重視しますが、卒業論文は意見・感想文ではないことにご留意ください。講座所属教員の授業やゼミをとおして見識を高め、疑問点を基に相談してください。</p> <p>実習や就職活動などで多忙となります。貴重な時間を有効的に活用してください。履修漏れがないように注意してください。</p>
<p>● 皆さんには、いくつかの外国語を学習した経験があります。今までは、学習者の立場で教材・教具を活用し、経験知に基づいた勉強をしてきました。しかし、それは本当に「効果的かつ効率的」でしたか。勉強の結果、どのような力が定着しましたか。客観的に省察してみましょう。</p> <p>● 外国語教育論分野では、外国語とは何か、なぜ外国語を学ぶのか、どのように外国語を学ぶのか、外国語を学ぶと何か変わるのか、といった素朴な疑問から出発し、学術として深く考究します。そのため、教員養成はもちろん、国内外の教育行政機関、教材・教具開発など、外国語に関わる広大な領域を射程に入れて、日々の研究教育を行っています。</p> <p>● 総合人間学部は、外国語教育学を学ぶには最高の環境です。教育学部でも文学部でもありません。文学、言語学、心理学、社会文化論などの専門家が多数在籍しており、教員養成大学はもちろん、いかなる教育系大学の追従を許しません。これを存分に生かせるのかは、あなた次第です。</p>	